

長野市おひぎで絵本事業 絵本選定委員会 会議要旨

- 【日 時】 令和5年8月24日（木） 午後2時から午後4時まで
- 【場 所】 市役所第一庁舎4階 教育委員会室
- 【出席者】 委 員 飯田茂委員 荒井結花委員 稲富裕子委員 今井順子委員
成田直美委員 西澤広美委員 古川美怜委員 柳澤安江委員
事務局 藤澤勝彦教育次長
野池達朗家庭・地域学びの課長
古平京子家庭・地域学びの課長補佐
石坂三由里家庭・地域学びの課係長
西村友香家庭・地域学びの課主査
佐藤文香長野図書館司書
芹沢広美南部図書館司書
近藤恭子豊野ひがし保育園長

【主な内容】

協議事項

(1) おひぎで絵本事業について

～事務局より説明～

- (委 員 長) ただ今事務局から説明があったが、ご質問やご意見はあるか。
- (委 員) 保健センターへ（配付絵本の読み聞かせに）行っているが、「でんしゃ くるかな？」が非常に人気である。絵本を配付する書店もこの本が最初に無くなってしまったと言っていた。（長年配付している）「いないいないばあ」と「くだもの」も良い本ではあるが、やはり新しい本が人気なようだ。
- (委 員) （令和4年度の）配付率が 94.1%と過去最高になった理由はどのように考察されているのかお聞かせいただきたい。
- (事 務 局) 令和2～3年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大によって、絵本の受取り場所である7～8か月児健康教室が中止となったことなどが影響し、配付率が大きく低下した。コロナ禍前の令和元年度の配付率は 92.4%であるため、令和4年度については新たな生活様式が定着してきて、人の動きがコロナ禍前の状況に戻ってきたということではないかと考えている。

(2) 絵本の選定について

～事務局より説明～

(委員長) 事務局説明に対して、ご質問・ご意見はあるか。

(質問・意見無し)

(委員長) 本年度は事前にお出しいただいた推薦絵本8冊中から、特に推薦したい絵本2冊をお選びいただいた。結果(資料4)を見ると、「おせんべ やけたかな」・「たまごがあるよ」・「おやさい めしあがれ」が最も多い3票を集めている。8冊のどの推薦絵本も素晴らしい絵本であると理解しているが、毎年1回の限られた時間の中で絵本を選定するというのは、非常に大変である。

今回、8冊の推薦絵本を1冊ずつ吟味すれば良いが、それは難しいのではないかと考えている。そこで提案であるが、3票を集めたこの3冊について議論を深め、おひぎで絵本事業で配付すべきであるかどうかを選んでいくことにしたいと考えているがいかがか。

(委員) 良いと思う。

(その他の委員からも異論なし)

(委員長) では、この3冊について推薦された委員から推薦理由をお話をさせていただきたいと思う。最初に、「おせんべ やけたかな」についてお願いします。

(委員) 私は6年間この委員会に参加しているが、当初からわらべうたの絵本を推薦してきた。その大きな理由の一つとしては、親子の触れ合いのとりかかりとして、最近このわらべうたの絵本が大変充実してきたということが大きい。この6年間、長野市や世界に様々なことが起こり、非常に生活の変化を感じた。特にコロナ禍の3年間は、子どもたちの3年という時間の中での成長の大切さを実感した時間であった。

児童センターでの勤務や、小・中学校での読み聞かせ、子育て支援講座に関わる中で、お母さんも子どもも含め、人との繋がりを非常に求めているが、どうやって繋がっていけばいいかという具体的なところで戸惑っているということをすごく感じている。そのため、今年もわらべうた絵本を推薦したい。

この本は、とても絵がはっきりしている。また、わらべ歌はリズムに音程がついているものもあるが、これは音程の関係ない唱え文句で、誰が読んで

もどんなリズムで読んでも伝わる。「おせんべやけたかな」というと、「やけた！」と1枚のおせんべがひっくり返る。また「おせんべやけたかな」というと、次のおせんべがひっくり返る。私は次に焼けるおせんべを指しながら読み聞かせをするのだが、大きな子どもでも読む中で自然にコミュニケーションが取れる。赤ちゃんの場合、まずお母さんが赤ちゃんの手をしっかりと握り、「やけた！」のところで両手で赤ちゃんの手を大事にひっくり返す。また、(赤ちゃんの手を)口に持って行って(おせんべを食べるように)ちゅちゅとすると赤ちゃんが非常に喜ぶ。

親子が触れ合ったり、違和感なく人の手に触れることができる、そういう意味で、このわらべうた絵本を多くの皆さんに知っていただきたい。

(委員長) 続いて「たまごがあるよ」についてお願いします。

(委員) 子どもさんの手を取ってもらいながら一緒に卵をとんとんと叩くと、とりが生まれる。大きな卵があったり、卵の数が増えたり、いろいろな色の卵が出てきたりとちょっとした変化もある。簡単で楽しめるかなと思い、こちらの絵本を選んだ。

(委員長) では、「おやさいめしあがれ」についてお願いします。

(委員) 絵の綺麗さに惹かれた。ストーリーは、1ページごとに完結している。その野菜に関連した食事が載っていたり、色々な動物や、メルヘンチックな河童も出てきて、子どもだけでなくお母さんたちも楽しむことができる。お子さんが成長してからも、「この料理作ろうよ」というように取り上げてもらえたらいいという希望もある。リアルで細かいタッチの絵なので、赤ちゃんには少し敷居が高いかなと思ったが、長く読める本を、という希望も毎年上がっているようなので、活躍してくれるのではないかと思う。後書きには70種類ぐらいの野菜が載っていると書かれており、大変になる。「めしあがれ」という文もあるので、「くだもの」とスイッチしても遜色ないかと思う。

(委員長) ただ今、3冊の本についてお話をいただいた。それぞれの絵本について他の委員さんから、また今発表された委員さんからご意見をいただきたいと思う。

(委員) 「おせんべ やけたかな」は絵がはっきりしていて良い。また、「おやさいめしあがれ」の絵が大変綺麗だと思った。「くだもの」の絵も綺麗だが、持っている方が沢山いる。お母さん方も、(絵本が)手元になくても図書館行ったりして沢山見ているので、配付数が少ないのだと思う。ぜひ2冊を交換していただければありがたいと思う。

(委員) 「おやさいめしあがれ」については絵が細かいという点は否めない。また、河童の存在についても心配なところではある。(配付絵本の)5冊に入れな

くても、お薦め絵本リストに載せるということでも良いと思う。

(委員) 「おやさい めしあがれ」については、小さいけれど迫力があって、図書館の読み聞かせなど不特定の年齢の方がおいでになった時にはとても良い本だと思う。しかし、赤ちゃんがどの程度この絵本を読み取れるかなという事は少し気になった。大人は割と書き込んであるものが好きかと思うが、余白があることで集中して、そこだけに目が行くというのが赤ちゃん絵本では大事なことではないかと思っている。

(委員) 余白の良さ、引いていくことの良さというのは音楽でも言われているところである。この絵本に関しては、盛り込み過ぎというところは否めないが、本当に絵が綺麗で大人も学習できるという意味では知っていて損はない。

(委員長) 「おやさい めしあがれ」は現在配付している「くだもの」とジャンルのには同じであると思う。ご説明いただいた中にもあったが、「おやさい めしあがれ」は絵が細かい。一方で、「くだもの」は大きい絵で、親が子一对一の関係の中で読む時に、視覚的にとても集中するという事は確かにあると思う。「おやさい めしあがれ」は色の鮮やかさや、70種類くらいの野菜がこの中に入っているということが素晴らしいと思うが、今のようなことが課題にもなるかと思う。

(委員) 「くだもの」のシンプルさが、情報が多いところで生きている今の子どもたちには良いのではないかという気がする。そのため、「くだもの」は残したいという思いがある。「たまごがあるよ」は新しい絵本なのか、初めて知った。とんとん、なでなでするところが面白いと思った。

(委員長) 「たまごがあるよ」は2017年の出版である。比較的新しい。

(委員) 「おせんべ やけたかな」と「たまごがあるよ」の2冊の変更でも良いかと思う。代わりに外す絵本としては、昨年から検討事項とされていた「ぼんちんぱん」、また「たまごがあるよ」はジャンルで言うと動物なので、一番長い「いないいないばあ」を変えるとすることも考えられると思う。

(委員) 「くだもの」は昨年度(R4.11.1~R5.3.31)の配付数が100冊で一番少ない。少ないということは、(皆に)行き渡っているということなのではないかと思う。そうすると、「おやさい めしあがれ」に交換しても良いのではないか。

(委員) 事業開始当初からこの委員をやっているが、いろいろなご家庭ですでにこの本をお持ちだからという意見もこれまで沢山出てきた。けれど、絵本は兄弟共有ではなくてその子のものであるということで、ずっと「いないいないばあ」を変えずにきた。ご家庭で持っているから新しいものをどんどん(入れよう)というのではなく子ども一人一人にプレゼントするつもりで、考えたら良いのではないかと思う。また、2歳になっても3歳になっても読める

ということではなくて、一番最初に読んであげる絵本であるということ
基本として忘れてはいけないのではないかと思う。

(委員) (保健センターで読み聞かせをする時に) 赤ちゃんの名前を書いてその子
の最初の本にしてね、という話をしている。もう 10 年前の話ではあるが、
高校生になっても「いないいないばあ」を参考書と一緒に本棚に入れてある
という方もいらっしゃる。盛んに断捨離と言われる今の時代に、果たして
若いお母さんの育てている子どもたちにそれが通用するかどうか。考え
方も変わってきていると思う。

(委員) リサイクルプラザに赤ちゃん絵本が出されているということは聞いている。
また、転勤族の方の中には荷物になってしまうからという理由で本を持
たない方もいるようだ。この時間で配付絵本を選定しなければいけないの
でそこまで考えを広げ過ぎてしまうのもどうかと思うが、一概に 3 人いた
ら皆が同じ本をもらうということにはならないのではないかという気もす
る。

(委員) (絵本の配付会場では) どの絵本も持っているから、持っていない新しく
選定された本をもらうという方にも会ったことがある。

(委員長) 若いお父さんお母さんの考え方は、実際に 20 年前や 30 年前と違ってき
ていると思う。それが別に悪いということではなく、そういう時代になって
きているということだと思う。先ほどお話があったが、「その子に最初にプ
レゼントする本」というこのおひぎで絵本事業の目的を離さないようにし
ながら、実態と合わせて、どのような形に持っていくのが一番良いのかと考
えていただくのが大事かなと思う。古いものが悪いわけでも、新しいものが
いけないわけでもないで、そこら辺をどのようにすり合わせて、良いもの
をこの選定委員会として推薦していくかというような形になるかと思う。

今 2 冊 (の変更) という話も出たが、それは事務局として特に問題ないか。

(事務局) 5 冊うち 1～2 冊の変更は可能である。2 冊を入れ替えると今まで長年選
定してきたロングセラー本も含めて 2 冊入れ替わり、全部で 5 冊という形
になるので、その辺りもお考えいただく中で設定していただければと思う。

(委員) 配付率が 100%にならない理由は、どう推察されているか。配付絵本 5 冊
を全部持っているから、もう必要ないという方はいらっしゃるのか。

(事務局) 健康教室に来られた方には、ほとんどすべての方に絵本を贈呈しており、
ここ数年で健康教室に来てお絵本をお受け取りにならなかった方は 1 人で
あったと記憶している。基本的には、5 冊の中から自分のお子さんのために
絵本をお選びいただくことができている。様々なご事情があり健康教室に
参加することが難しい家庭もある。保健センターの保健師が個別に関わっ
ている場合には、家庭訪問の機会に絵本をお渡する場合もあるが、保健セン

ターとのつながりがない、連絡をしてもつながらない家庭はあり、それが100%にならない理由であると考えている。

(委員) 5冊のどれもいないという方がいるのであれば、(配付絵本を)刷新する必要性を感じたので、質問した。

(委員) 「おやさい めしあがれ」は、年齢が上がっても楽しめる良さがあると思うが、やはり初めて出会う本だということを考えると、お薦め絵本リストに載せる形で良いのかなと思う。

「おせんべ やけたかな」については、今のお母さんたちにとっては逆に新鮮なのではないかと思う。(推薦者からの) 非常に熱い思いを受けて、ぜひ配付絵本に入れたいと思った。(推薦者の) 思いをこの絵本に乗せて、お母さんたちのところでプレゼンしてもらえば、手に取る方が多くなるのではないかと想像した。

「たまごがあるよ」については、インターネットで検索するとおすすめにでてくる。今はネット社会で、お母さんたちもネットでよく検索されているが、ネットだけで満足してしまい、実際に手に取ることはあまりないかもしれない。実際に読んでみると、大変面白い展開があって、初めての絵本としても子どもの興味もそそるものもあり、年齢が上がっても楽しめる本だと思う。

(委員) 先程ロングセラー本について話があったが、実際の子どもたちの声をここでお伝えしようかと思う。「いないいないばあ」は、誰でも喜ぶ絵本である。発達の遅れがあるお子さんでも、病気があり寝たきりのお子さんでも、3か月ぐらいのお子さんでも、この絵本を見る。絵がはっきりはしていないというご指摘もあるかと思うが、3か月ぐらいの赤ちゃんたちの知覚というのは、あんなふうにはぼやっとしているのではないかと思う。その中で、(ページを) めくる感じと「いないいないばあ」のリズムがたまたまなく人の心に訴えかけるものがあるということを実感している。

「くだもの」は、長野市が誇る絵本の一つという視点でお母さんたちにも見てもらいたい。ほとんどの果物が新鮮な状態を誰もが想像ができるというのは、この長野市の得意なことなのではないかと思う。作者の平山さんは昨年亡くなられてしまったが、黒姫の方にお住まいだった。また、他にもポピュラーな絵本が多くあり、その時その時の年齢の子にタイムリーなものを描き分けていらっしやるたぐいまれな作家さんである。小学校で「この絵本知ってる？」と聞いたら、「懐かしい」と言った子がいた。おそらく、お母さんにおひぎで読んでもらった時の雰囲気や温かいやわらかい声、感覚などをすべてひっくるめて懐かしいと言ってくれたのではないかと思う。

ロングセラー本について、毎年協議されるのも大事なことだとは思いますが、

私たちが大事だと思っていることを若い世代の方々に確固たる信念を持ってお伝えしていくということも一つの任務である。ロングセラー本（の良さ）については、子どもにしか分からない。大人の私達は想像するしかないが、実際に子どもがこのような感想で示してくれているということを理解いただけたら嬉しい。

（新たに）2冊を選定するという話もあったが、「いないいないばあ」を差し替えるというのは少し心が痛むなというのが、私の意見である。

（委員長）他にご意見はあるか。

（意見なし）

（委員長）ただ今3冊についてさまざまな意見を出していただいた。「おせんべ やけたかな」については、非常にシンプルな絵本である。先ほども話に出たように、7か月から1歳までの子どもにはどのような絵本が良いかと考えるのが基本であるが、今回そういう本をお持ちいただいたかなと思う。また、わらべうたの文化を届けるという強い思いがある。

「たまごがあるよ」については、今の新しい感覚やデザインを上手に取り入れた参加型の絵本だと思う。また、電子版があるなので、そういったことも承知しておいた方が良いかと思う。

「おやさい めしあがれ」は、見て楽しむことができる素晴らしい絵かと思う。また、言葉が俳句のリズムになっているという点で、言葉も考えてある。ただ、7か月から1歳の子どものには内容的が少し難しいという意見もある。

3つそれぞれに良さもあり、また課題もあるということだったかと思う。では、3冊のうち自分が推薦したい本1冊に挙手をしていただき、配付絵本を選んでいきたいと思う。

「おせんべ やけたかな」 8票

「たまごがあるよ」 0票

「おやさい めしあがれ」 0票

（委員長）では、「おせんべ やけたかな」を配付絵本として選定したいと思うがよろしいか。

（一同同意）

- (委員 長) では、1冊を配付絵本に入れるので、1冊を外していきたいと思う。資料4の入替候補絵本を見ると「ぼんちんぱん」が数の上では一番多い。また、昨年の選定委員会の中では「がたんごとんがたんごとん」を配付絵本から外したが、「ぼんちんぱん」についても、次回検討しなければいけないという話が出ていた。皆さんからご意見はあるか。
- (委員) 「ぼんちんぱん」も「おせんべ やけたかな」も「食べ物」と「リズムを楽しむ」という同じジャンルの本である。そのため、「ぼんちんぱん」との交換で良いのではないか。
- (委員) 「ぼんちんぱん」は人気がある。若いお母さん方はこれだったらお子さんに読んであげられると思うのではないか。また、子どもたちも喜んでるところを見ると、まだまだ(配付絵本から)外せないのではないかという思いもある。
- (委員) 小学校や保育園で読み聞かせをしているが、お母さんたちに話を聞くと、最初は飛びつくがいつまでも読むわけではないという意見も聞いている。破裂音は楽しく盛り上がるが、もう少し長く親子で楽しめるという思いもある。
- (委員 長) 平成21年からこの事業が始まり15年になる。「いないいないばあ」は、平成21年から今まで14年間、「くだもの」は平成24年から11年間(配付している)。「がたんごとんがたんごとん」は、前回の選定委員会に変更となったが、これも10年以上配付してきたものである。「ぼんちんぱん」令和元年から4年間、「もう おきるかな?」は令和2年から3年間、「でんしゃくるかな?」は令和4年から1年配付しているという状況である。
- (委員) 資料2の過去の配付状況を見ると、「くっついた」は飛びぬけて配付数が多かったが、3年で配付絵本から外している。(配付年数が)長い本を外すという話もあるが、短くても外すということもあり、その時の選定委員の考え次第である。
- (委員 長) 他に意見があればお願いしたい。
- (委員) 何かと交換するのであれば、似通ったものばかりが残らないよう同じジャンルのもの同士を交換していくのが良いのではないか。選ぶお母さんたちも、食べ物もあり、乗り物もあり、生活もありの方がチョイスしやすいのではないかと思う。
- (委員) 昨年、沢山議論して「でんしゃくるかな」を選定したので、「でんしゃくるかな?」についてはもう少し様子を見ても良いのではないかと思う。「ぼんちんぱん」はとっつきやすく今のお母さんたちが好きそうだなと思うが、熱が冷めやすいということは私も実感している。同じジャンルということも考えると「ぼんちんぱん」を外すということで良いのではないかと思う。

(委員 長) では、外した方が良いと思う絵本について、5冊あるうちの1冊に1回手を挙げていただきたい。

「いないいないばあ」	0票
「くだもの」	0票
「でんしゃ くるかな？」	0票
「ぼんちんぱん」	7票
「もう おきるかな？」	1票

(委員 長) 現在配付している「ぼんちんぱん」を配付絵本から外したいと思うが、よろしいか。

(一同同意)

(委員 長) それでは、選定する本5冊を確認する。「いないいないばあ」、「くだもの」、「でんしゃ くるかな?」、「もう おきるかな?」、「おせんべやけたかな」この5冊とするがよろしいか。

(一同同意)

(委員 長) ありがとうございました。

(3) その他（お薦め絵本リストの作成について）

～事務局より説明～

- (委員長) 事務局から説明があったが、ご質問やご意見はあるか。
(委員) 配付絵本から外れた「ぼんちんぱん」はリストに載るか。
(事務局) 「ぼんちんぱん」はお薦め絵本リストに掲載していきたい。
(委員長) 他にご意見はあるか。

(意見・質問なし)

- (委員長) 全体を通して、委員の皆様から何かご発言はあるか。
(委員) 2つお願いがある。1つ目は、ぜひセカンドブックの検討をしていただきたいと思う。セカンドブックができれば、先ほど話にあった、このファーストブックの「長く（楽しむことができる絵本を渡したい）」という課題をクリアでき、より最初の絵本という部分に集中して選書ができるようになるのではないと思う。第四次長野市子ども読書活動推進計画にも、環境づくりということを書きいただいている。これを高校生までつなげていくという読書推進のねらいも考えるとファーストブックだけではとても賄いきれていないと強く申し上げたい。

2つ目であるが、おひざで絵本事業も開始から15年目に入り、絵本を配られた子がこれで教育課程を終える。絵本を配ったことがどのように子どもたちに影響したのかということ、家庭・地域学びの課だけではなく、図書館等と連携をとって検証をしていただきたい。また、第四次長野市子ども読書活動推進計画の14ページには「妊娠期も含め」と書いてある。妊娠中のお母さんは、夢と希望に溢れていて、お腹の中の子どもに対してどのように準備をしたらいいかということが一番入りやすい時期なのかなと思う。なので、絵本の配付方法についても、頭を一度空っぽにして、どのタイミングが今のお母さんたちに一番受けとめていただけるかということを考えていってほしい。

- (委員長) ご意見については、また事務局の方でお考えいただきたい。それでは、以上をもって協議事項を終了とする。